

あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第39号

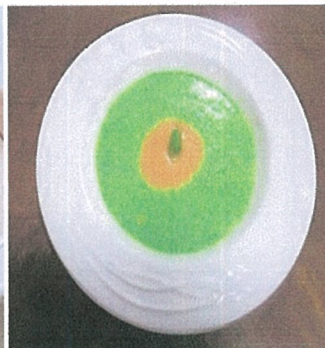
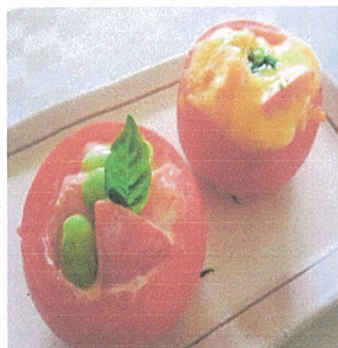
2015年11月15日発行

*** 目次 ***

- | | |
|----------------------|------------|
| 1. 第12期援農ボランティア養成講座 | 5. イベント報告 |
| 2. 援農ボランティア情報交換会のまとめ | 6. 今後の行事予定 |
| 3. 「水の館」を農業振興の拠点に！ | 7. 編集後記 |
| 4. あびこ農力発見プロジェクト | |



「あびこ農力発見プロジェクト料理教室」
7月25日（土）・9月13日（日）



「あびこ農力発見プロジェクト料理教室」
7月25日（土）メニュー（一部）
トマトの詰め合わせ（左）
野菜の冷製赤・緑のスープ（右）



第12期養成講座（農家実習出発前）



農家実習時の休憩中スナップ（古川農園で）

発行：あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 米澤 外喜夫
住所：270-1155 我孫子市我孫子新田 22-4（あびこん内）
（業務日 月・火・木）Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771
E-mail abikochisanchisyokyo@sky.plala.or.jp
URL <http://business4.plala.or.jp/chisan/>
（協議会ホームページではカラーでご覧いただけます）

1. 第12期援農ボランティア養成講座

援農ボランティア部会 植木康雄

第12期の援農ボランティア養成講座は10月10日(土)から開講しました。

今年は申込者が7名、援農体験者が5名の計12名が受講しています。内訳は男性7名、女性5名です。市外からは2名の方が申し込まれました。(土浦市1名、船橋市1名 いずれも女性)

座学(我孫子の農業と農政について)を行い、実習(種まき、苗の定植、トマトの下葉かき、草取りなど)を受け入れ農家で行いました。

11月21日(土)の閉講式修了後、12月からはボランティア活動を開始します。

諸先輩の皆さんには、ご支援・ご協力を宜しくお願いします。



2. 援農ボランティア情報交換会のまとめ

援農ボランティア部会 井出史郎

今年のお盆前の猛暑、9月の台風18号の甚大な被害。気候変動について世界規模で、そして真剣に取り組まなければならない時期に来ているのかもしれない。

さて、先日9月26日(土)18:00から、「近隣センターこもれび」にて、平成27年援農ボランティア情報交換会を実施いたしました。受け入れ農家から5名、援農ボランティアから16名。お忙しい中ご参加をいただき、実行委員として感謝しております。

先ず三宅部会長より現状の援農ボランティアの状況についてお話しをいただきました。

援農ボランティア部会発足から11年目に入り、メンバーの高齢化、社会事情の変化によりボランティア参加者が増えていないこと、受入農家の希望に対する充足率は50-60%で推移しているということでした。私の経験でも、作業前の農家さんとのお話しで、「参加する人数が減ったねー」や、「〇〇さんを最近見ないねー」と言う事を聞く事は少なくありません。

それでは、実際活動をしている援農ボランティアメンバーと受入農家双方では、現状をどの様に感じ、考えていらっしゃるのか。自由な意見交換を通してこれからの課題を明らかにしてゆきたい、と言う事で、皆様のご意見を伺いました。

その話し合いの中であがった、ポイントになる意見をいくつか上げてみたいと思います。

●若王子さんからの報告（市民団体フォーラムでの発表に関して※）

我孫子の市民団体が困っていること

- ・会員の高齢化
- ・リーダー等の引受手が居ない
- ・会員の減少

市民活動参加を阻害する要因

- ・年金支給年齢の繰上げ
- ・給与の低下（定年後も働き続ける必要がある）
- ・共稼ぎ世帯が増え、女性の市民活動が減ってきた



情報交換会の様子

●伊吹さんからの意見

- ・市民活動団体同士のネットワークで、援農ボランティアへの参加を希望する例もある。潜在的な参加希望はあるのではないか。それを逃さない様に対応してゆく。
- ・市内だけでなく近隣の市（柏・松戸・船橋・印西等）からの参加もある。これらの希望にも参加動機も含め細かく対応し、メンバーを増やしてゆく事が出来るのでは。

●長島さん / 受入農家 鈴木順一さんからの意見

- ・養成講座を終えてボランティアに参加するが、継続しての参加をしなくなってしまう。
- ・参加者は自分で植えた苗がどんな風に成長し、収穫されているか、そこまで知りたいのではないか。そういう楽しみの部分が欠けているのではないのか。逆に言えば、その点を見直せばもっと定着してくれるのではないのか。

●南さんからの意見

- ・フェイスブック等のSNSを活用するのはどうか。

短い時間ではありましたが、率直な意見を伺うことができ、大変意味のある会であったと思っております。

援農ボランティア発足から11年目、色々な意味で“変革期”ではないのでしょうか。新たなステップに進むために、今回いただいた意見を参考に、新しい“仕掛け”を考え、我孫子型“農”と“市民”の関係を作りだしていければ良いなとも考えております。

今後とも援農ボランティアへのご参加よろしくお願いいたします。



※「我孫子のこれからフォーラム」に関する詳細は7ページをご参照下さい。

3. 「水の館」を農業振興の拠点に！

農政課



平成 27 年 7 月 1 日、我孫子市は千葉県から「水の館」とその周辺に広がる手賀沼親水広場の移譲を受けました。

この移譲に伴い、平成 29 年春の開設を目指して「水の館」1 階に農産物直売所を核とした農業拠点施設を整備し、我孫子市の農業振興の拠点としてまいります。

平成 27 年度は実施設計、平成 28 年度に整備工事を行う予定です。

この農業拠点施設は、市が策定した「手賀沼親水広場等活用計画」に盛り込んでおり、利用者向けサービス機能として、販売(農産物等直売所)施設・加工処理施設・飲食(オープンカフェ含む)施設・水環境や我孫子の農業に関する情報コーナー等を整備した、水質保全啓発の目的を補完・向上させる、様々な交流や賑わいを創出することを目指した複合施設です。

中心となる農産物直売所の売り場面積は、「あびこん」の 2 倍以上の約 253 m²、来客数は飲食施設も含めて 39.8 万人、売上は約 2 倍の 2 億 1,770 万円を見込んでいます。

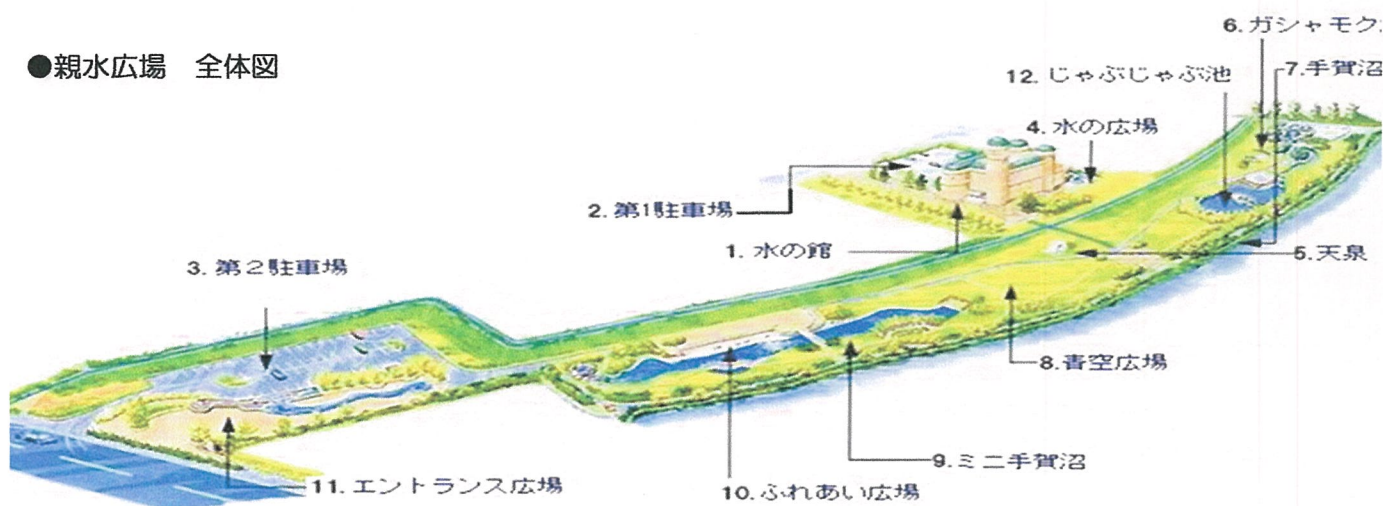
2 年後の「水の館」リニューアルオープンに向けて、施設の目的を果たすためには農業者と市民、商工業者等が連携し積極的な取り組みが不可欠となります。

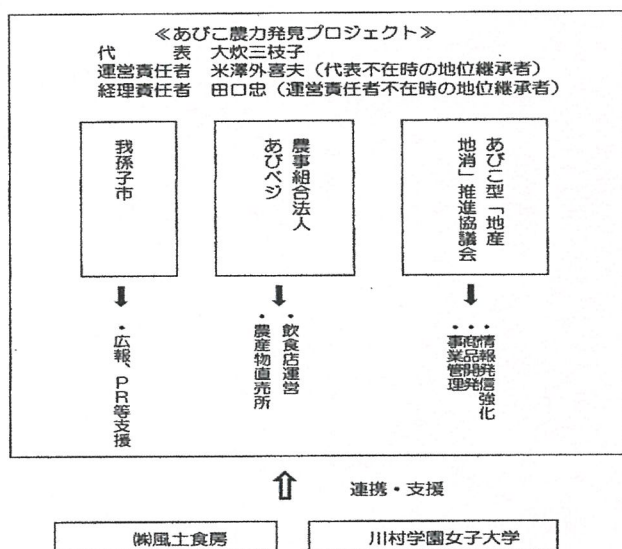
このたび、農事組合法人あびベジ・あびこ型「地産地消」推進協議会・我孫子市の 3 者が構成団体となり、「あびこ農力発見プロジェクト」※を設立し、国の交付金である「都市農村共生・対交流総合対策交付金」を活用して、リニューアルオープンに向けての事業推進を図ることとなりました。(※「あびこ農力発見プロジェクト」の詳細は次章をご参照下さい)

具体的な事業として、あびベジは、経営コンサルタントを活用した農産物直売所・飲食施設の経営研修、女性農業者を中心とした地元農産品を活用した加工品の開発、飲食メニュー開発等、あびこ型「地産地消」推進協議会は、地元農産品の地元大学・商工業者と連携した加工品開発、ブランド商品化、我孫子農産品を取り入れた料理教室(座学を含む)の開催、我孫子の農業と農産物直売所の情報発信用としての DVD やパンフレットの作成を計画しています。

平成 27 年度・28 年度は、魅力ある農業拠点施設にするための重要な年と言えます。
我孫子市民にとっても近隣住民にとっても、「行ってみたい、また行きたい」と思ってもらえる施設にするために、ご協力のほど宜しくお願いいたします。

●親水広場 全体図





●あびこ農力発見プロジェクトの目的

1. 「食」を活用した観光と連携したグリーン・ツーリズム
 - ・経営コンサルタントを活用した農産物直売所の経営研修と経営計画等の作成（あびベジ）
 - ・女性農業者を中心にした地場産加工品の開発・飲食メニューの開発（あびベジ）
 - ・地元大学・商工業者と連携した加工品開発及びブランド商品化（協議会）
 - ・我孫子市内・近郊都市などへの情報発信（農産物直売所パンフレット・DVD等の作成）（協議会）
2. 「食」の提供などを通じた学校・企業との連携
 - ・我孫子産農産物を取り入れた料理教室並びに座学開催等による「食」の人材の育成及び体制の整備（協議会）

4. あびこ農力発見プロジェクト

あびこ農力発見プロジェクト

委員 白澤幸雄

I あびこ農力発見プロジェクトとあびこ型「地産地消」推進協議会との関わり

本年度に設立された「あびこ農力発見プロジェクト」は、今年度より、手賀沼親水広場の「水の館」が千葉県から我孫子市に移譲されるに伴い、市は「水の館」内に市の農業拠点施設として整備する計画のもと、あびこ農産物直売所「あびこん」をメイン事業施設とすることに決定されました。

その後、リニューアルオープンに向けて、農事組合法人あびベジより当協議会へ協同事業参画への要請があり、協議の上参画することとなり、プロジェクトチームとして、我孫子市、農事組合法人あびベジ、あびこ型「地産地消」推進協議会の3者の構成団体による、「あびこ農力発見プロジェクト」が平成27年5月7日に設立されました。

II 農事組合法人あびベジの取り組み事業

1. 経営コンサルタントを活用した農産物直売所の経営研修と経営計画等の作成
2. あびベジの部会を主体とした加工室での加工品開発・飲食メニューの考案

III あびこ型「地産地消」推進協議会の取り組み事業

1. 地元大学・商工業者と連携した加工品開発及びブランド商品化について

- ①我孫子産農産物を川村学園女子大学及び地元企業と連携した農商学連携による加工品開発は、我孫子産完熟トマトの栄養素、旨み、健康維持に欠かせない成分を活用した「トマトジャム」、「トマトコンポート」、更に未熟トマトの色合い・触感・清涼感を活用した「翠のトマトソース」の加工品作りに成功しました。
- ②川村学園女子大学は、今年5月に小学館主催による高島屋新宿店で行われた「大学は美味しい!!」フェア（32大学参加）にトマト製品の出店販売を行い、NHKの放映、その後各種マスコミにも取り上げて頂き好評を博しました。現在は、あびベジ、川村学園女子大学、地元企業と連携して、市場販売化に向けて取組検討中です。市場に出回りましたら販売にご協力の程お願い致します。

2. 我孫子市内・近郊都市などへの情報発信について

- ①我孫子の農業と農産物直売所をより多くの消費者・都市住民に知ってもらうため、四季折々の我孫子の農産物の特徴や農産物づくりのこだわり等を農家から取材すると共に、農産物直売所でのイベント等を DVD やパンフレットに編集し、その情報をホームページ、Facebook、Youtube 等を活用して多方面に発信します。
- ②作成した DVD やパンフレットは、農産物直売所や公共施設等で活用するとともに、公共機関、学校、旅行関係者等にも配布します。
- ③DVD については、上半期のあびこ会員全農家、2 回の料理教室、あびこ 8 周年、新米フェアの夫々のイベント撮影取材も終わり、2 本に纏め編集集中であります。引き続き、下半期の我孫子市主催の農業まつり、協議会主催のちびっ子餅つき大会、料理教室（2 回分）の撮影取材を進めていきます。

3. 我孫子農産物を取り入れた料理教室並びに座学開催等について

- ①我孫子産農産物をより多くの消費者に広めるため、四季折々の旬の我孫子産農産物を使った料理教室を世代別に沿った座学とセットで開催します。
- ②座学は、高校生、子育て中の主婦、シニアの各世代を対象とし「将来の食育後継者育成」、「子供と食事」「食と健康」等のテーマに沿って実施します。
- ③川村学園女子大学のオープンキャンパスに合わせて年 4 回実施します。

IV 料理教室・座学の実績並びに総括

講師：福永淑子教授（前川村学園女子大学 生活創造学部生活文化学科 学科長）

場所：川村学園女子大学 14 号館

1. 第 1 回料理教室

- ①開催日：平成 27 年 7 月 25 日（土）
- ②参加者：34 名
- ③料理テーマ：夏野菜のハーモニー料理を作ってみませんか！
―地元の野菜を利用して―
- ④使用した主な我孫子産野菜：枝豆、トマト、キュウリ、ナス、ズッキーニ等



2. 第 2 回料理教室

- ①開催日：平成 27 年 9 月 13 日（日）
- ②参加者：27 名
- ③料理テーマ：美食同源 ―地元の野菜で中華を楽しみましょう―
- ④使用した主な我孫子産野菜：カボチャ、イチジク、ブドウ、しいたけ等



3. 総括

- ①参加者は、10 代の高校生、大学生 15 名、30 代の新規就農希望者 4 名、30 代～50 代 20 名、60 代～70 代 20 名（年齢無記名者 2 名）と幅広い年代での参加がありました。
- ②この度の料理教室は、従来の料理教室とは異なり、大学の教室で講義形式による座学講座を設け、各メニューのカロリーに関する講義もあり、更に開催場所が大学の大調理室（近隣センター調理室の 3 倍の 60 人収容）のため、参加者からは大変勉強になったとの意見を頂きました。
- ③第 1 回料理教室では、マスコミに開催情報の提供をした結果、各社とも企画に大いに関心を示され、朝日新聞取材（7 月 23 日付け掲載）、ジェイコム撮影（7 月 28 日付け放映）、地元ミニコミ誌にも参加募集記事が掲載され、参加応募にも効果がありました。今後も、機を伺いながら情報提供を検討していきます。

5. イベント報告

1. 第8回あびこカップまつり ―新鮮野菜販売―

日時：平成27年8月22日（土） 場所：けやきプラザ前広場



農家さんおすすめのレシピあり



炎天下の中、本当にお疲れ様でした

2. 「我孫子のこれからフォーラム」

日時：平成27年9月26日（土）・27日（日）

場所：けやきプラザ 7～9階

主催：我孫子市

参加者：12団体16名、見学者15名

当協議会は市民活動フェスタのまちづくり分科会に属するため、26日（土）に開催された“あびこ市民活動サミット2015～活動担い手高齢化の解決策はあるか”に他団体と共に参加した。

まず始めにテーマとして市民活動団体が「活動する上で困っていること」として3点

（会員の高齢化、リーダーの引き受け手がいない、会員の減少）が挙げられた。また、長く参加している人同士など、特定の仲の良い人たちだけで固まってしまうと、結果的に新しい人が入りづらい環境ができてしまう可能性がある、という指摘もあった。

次に市民活動参加を阻害する社会的要因（年金支給開始年齢の繰り上げ、年功賃金からの変化による給与の低下、非正規雇用の増加、共働き世帯の増加等）や事例の紹介が行われた。

（例：ある参加団体の構成年齢…80才以上 5%、70代 60%、60代 30%、60代未満 5%）

最後にディスカッションが行われ、これらの問題に対する解決策として、イベント開催や広報等を通じて地道に活動の輪を広げる必要があるとの結論に至った。



ディスカッションの様子

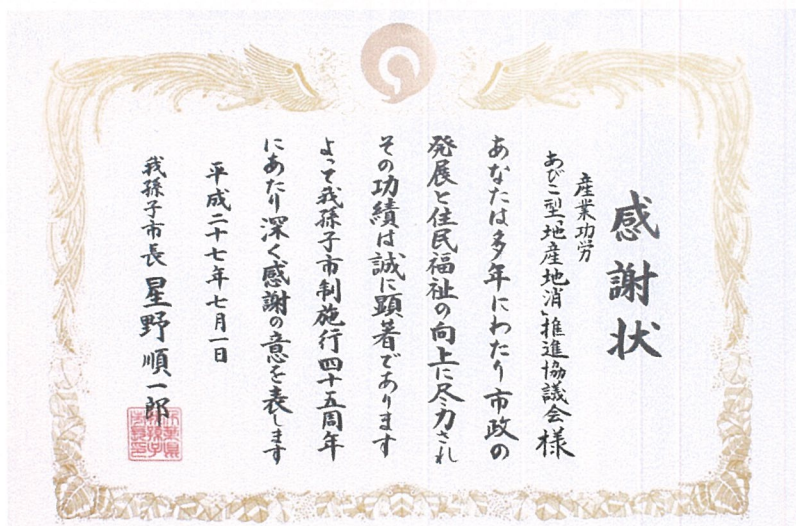
6. 今後の行事予定

日 時	行事名	場 所	主催者・ 担当部会
11月14日(土) 15日(日)	「あびこん新そばまつり」	あびこん	あびこん 他
11月21日(土)	「第34回我孫子市農業まつり」	あびこん	実行委員会
11月28日(土)	「採って食べよう!秋のお野菜で芋煮会」	仲原農園	食育交流部会
12月12日(土)	「年末のつどい(忘年会)」	けやきプラザ	総務部会
1月16日(土)	「新年ちびっ子餅つき大会2016」	あびこん	総務部会
2月6日(土) 7日(日)	第40回消費生活展 全体テーマ「のびのびタウン♡あびこ “安全安心で豊かな明日”」	我孫子市民プラザ	消費生活展 実行委員会・ 広報部会

7. 編集後記

現在、当協議会では協議会ホームページの更改に取り組んでおります。更改を行う理由としては、①協議会 HP 開設後10年有余が過ぎ、当初の協議会を主にした作りでは一般の方(消費者)への訴求力が弱い
②都度の更新が不統一になされ、ページ表示や配置などが統一されていない③更に更新作業に手間が掛かっている。(担当者が変わる都度、担当者スキルで作業の為)等が挙げられます。新ホームページ作製におけるコンセプトは「消費者目線を意識したホームページ」です。そのため、協議会各部会から1～2名を選出し、平成27年3月から月1回のペースで検討会を行っております。(植木)

今年9月に発生した台風第18号にともなう関東・東北豪雨により、各地で水害等による大きな被害が発生しました。農林水産省によると、この大雨による農林水産分野の被害額は約401億円、冠水などの被害を受けた農地が約1万8500ヘクタールに上ります(2015年10月9日現在、毎日新聞)。被災地域で今も懸命の復旧作業が続けられていますが、回復の目途がなかなか立たない地域もあり、様々な支援が必要とされています。被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。(川田)



7月1日、けやきプラザで市制45周年記念式典が開催され、市の自治の発展などに尽力された市政功労者としてあびこ型「地産地消」推進協議会も感謝状を頂きました。